

# 学生バズる商品開発

【三重・伊勢】伊勢市にある皇學館大学の学生6人は3月中旬、市内の産直施設「サンファームおぼた」で、イチゴ「かおり野」の規格外品を活用した商品3種類を販売した。地域の特産品のPRや、規格外品の有効活用につなげることを目的として、半年ほどかけて商品開発を進めてきたもの。

これは、J A伊勢くらしの活動推進課と同大が連携した取り組み。若い意見や柔軟なアイデアを取り入れ、「バズる」加工品の開発を目指したものの、参加するのは、伊勢志摩圏を中心

三重・J A伊勢×皇學館大

## イチゴ尽くし売り込む

とする地域課題についての体験型学修プログラム「CIL活動」の中で、活動を選択した1～3年生の11人。学生らは8月以降、レシビの発案・作成を行い、12月には同J Aのイベントで来場者らに試食を振る舞った。併せてアンケートを行い、販売する商品を決めた。販売に当たっては、同課が運用する交流サイト（SNS）のアカウントで、事前のPRをしてきた。

この日に販売したのは、「いちごづくしサンド」「ソース選べる！ いちごスティック」「いちごホイップのスポンジケーキ」の3種類。価格はそれぞれ200円に設定し、各50円を用意した。産直施設の買い物客らに商品を説明したり、試食を勧めたりしながら売り込んで、1時間半ほどで売り切った。

同J Aの担当者は「4月以降はメンバーが入れ替わるが、集まったメンバーで価格の見直しや商品のブラッシュアップを進めていきたい」と話した。

産直施設「サンファームおぼた」で来店者に商品を販売する学生

